

# 9 リスクアセスメント演習

ここでは、リスクアセスメントの実施手順について理解を深めるため、演習問題をやってみましょう。演習によってリスクアセスメントの具体的な進め方がわかり、職場に潜む労働災害のリスクについて、事業場内での相互理解を深めることができます。

演習問題は、「運搬作業」と「おにぎり成型作業」の2種類です。20～21ページの演習用紙を使用し、次の手順で、空欄に記入してください。演習は個人で考え、グループで話し合って進めます。

## 手順 1 危険性・有害性の特定

イラスト(18～19ページ)について、どんな危険性・有害性があり、それによってどんな災害が発生するのかを想定し、発生のおそれのある災害を表現します。

**「～が」+「～によって」+「～して」+「～する」**

まず、個人でイラストを見て、災害を想定し、その後グループで話し合って確認し、演習用紙の「3. 危険性・有害性により発生のおそれのある災害」の欄に記入します。グループのみんなでやることにより、職場に潜む労働災害のリスクについて認識が共有できます。

## 手順 2 リスクの見積もり

手順1で予測した、発生のおそれのある災害について、11～12ページの①**頻度**(表①)、②**可能性**(表②)、③**重篤度**(表③)の各要素を見積もります。①～③の数値を合算して点数を算出し、リスクレベル(表④)を評価してください。

まず、個人で見積もり、次にグループで意見を交換するとお互いがどのように考えたか理解できます。3つの要素の点数についてグループ内の意見が異なった時は、話し合っ、意見の統一を図ります。

この時、平均値にしたり、多数決で決めたりせず全員が納得のいく点数になるように話し合います。やむを得ず全員一致が得られない時は、点数の一番大きい値をグループの見積もり結果としてください。



### 手順 ③ リスク低減措置の検討

手順2でのリスクの見積もり結果から対策を立てます。リスクレベルとリスク低減措置内容の検討の優先順位(15ページ)の考え方を踏まえ、リスクを除去・低減するための措置案を検討します。まず、個人で低減案を考え、その後グループで話し合います。それぞれの低減案について、実施した場合の効果を予測し、最良の案を選びます。

なお、低減措置を実施しても、技術やコストの問題などで、現状ではリスクが残留してしまう場合があります。リスクが低減されないものは、決して無理に下げることせず、残留リスクの今後の対応について記録しておきましょう。

## 演習問題 ① 運搬作業

工場内で、作業者がフォークリフトを使って荷物の運搬作業を行っている。  
もう一人の作業者は荷物を両手で抱えて運んでいる。

